

山口県教育委員会会議録

日時：平成27年5月21日 午後2時
 場所：山口県教育庁教育委員会室

教 育 長	<p>皆さんこんにちは。時間になりましたので、ただいまから平成27年5月の教育委員会会議を開催いたします。 最初に本日の署名委員の指名を行います。 稲野委員と中田委員、よろしくお願ひします。 それでは、さっそく議案の審議に入りたいと思います。 議案第1号につきまして、教育政策課から説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>それでは、議案第1号山口県教育委員会表彰規則による表彰についてご説明いたします。議案書の2ページ、3ページをご覧頂きたいと思ひます。当課、学校運営班の班長でありました、植野浩美主査は、先月20日に急逝を致しました。大変残念に思っております。 死亡退職に伴う永年精勤の表彰基準は勤務年数20年以上とされておりまして、植野さんは32年の勤務でございます。表彰要件を満たしております。 これまでの長年の功績に報いるためにも、速やかに表彰を決定し、表彰状を授与したいと考えまして、教育長に対する事務の委任等に関する規則によりまして、教育長が臨時に代理して20日付の表彰を決定しましたことを報告し、承認をお願いするものであります。</p>
教 育 長	<p>ただいま教育政策課から議案第1号について説明がありましたけれども、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。 本当に突然の話で、私も驚いたのですが、大変残念であります。 ご本人の努力に報いるためにも、できるだけ早く対応し、決定させて頂いたということですね。よろしいでしょうか。 では、議案第1号につきまして、承認することとしてよろしいですか。</p>
全 委 員	承認。
教 育 長	<p>議案第1号を承認いたします。 続きまして、議案第2号について、高校教育課から説明をお願い致します。</p>
高校教育課長	<p>「山口県立高等学校等の管理に関する規則の一部を改正する規則の制定」に関する第2号議案について、お諮りいたします。 関連の資料は4ページから8ページまでとなっておりますが、8ページの参考資料により、ご説明させて頂きます。 今回の改正は、周防大島高等学校久賀校舎に福祉専攻科を設置することに伴い、所要の改正を行うものでございます。周防大島高等学校福祉専攻科では、高等学校等卒業者を対象として、介護福祉士資格取得をめざした教育を行い、地域の介護福祉を支える先進的な知識と技術を身につけた将来のスペシャリストを育成します。 修業期間は2年間で、入学定員は20名程度としております。 なお、施行期日につきましては、平成28年4月1日としております。以上、ご審議をお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>ただいま高校教育課から議案第2号について説明がありましたが、ご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。</p>

	<p>福祉専攻科の設置ということですが、よろしいでしょうか。 それでは、議案第2号について、承認することとしてよろしいでしょうか。</p>
全 委 員	承認。
教 育 長	<p>では、議案第2号を承認いたします。続きまして、議案第3号について、特別支援教育推進室から説明をお願いいたします。</p>
特別支援教育推進室次長	<p>それでは、資料の9ページをご覧ください。議案第3号は、山口県教育支援委員会の委員の任命についてでございます。 教育支援委員会の委員は、山口県教育支援委員会規則第3条第2項の規定によりまして、教育委員会が任命することとなっております。 また、教育長に対する事務の委任等に関する規則により、教育委員会会議に諮る必要があります。 10ページに平成27年度における委員名簿をお示ししておりますけれども、この度の委員の一部変更につきまして、名簿の4番目にお示ししておりますように、山口県国公立幼稚園・こども園連盟会長の交代により、周南市立富田東幼稚園の細野聖子園長を後任として、充てるものです。 今回の細野新委員の任期につきましては、前委員の残任期間であります、平成27年6月1日から平成28年5月31日までとなっております。以上、ご審議をよろしくお願いいたします。</p>
教 育 長	<p>ただいま特別支援教育推進室から議案第3号について説明がありました。ご意見、ご質問がありましたらお願い致します。</p>
稲 野 委 員	<p>これは会長職の交代に伴って、委員が替わられる形だと思います。会長職の交代時期というのは、まちまちだと思うのですが、このような交代については事前にお話があるものですか。</p>
特別支援教育推進室次長	<p>10ページに委員の一覧をお示しておりますが、委員の任期は2年間でございます。国公立私立幼稚園連盟の会長さんが、年度途中の1年で交代する例はこれまでもあります。他の役職の交代については、頻繁にはございません。</p>
教 育 長	<p>それでは、議案第3号について、承認することとしてよろしいですか。</p>
全 委 員	承認。
教 育 長	<p>それでは、議案第3号を承認いたします。 続きまして報告事項に入ります。 報告事項1について、教職員課から説明をお願いします。</p>
教 職 員 課 長	<p>それでは、平成28年度（2016年度）山口県公立学校教員採用候補者選考試験について、実施要項をお手元に配布のとおり定め、去る5月14日に発表致しましたのでご報告いたします。 資料14ページから16ページにかけて、実施要項の主な内容を整理しておりますのでご覧ください。 なお、今年度実施の採用試験の概要につきましては、今年3月の教育委員会会議において実施大綱に基づき、ご説明をさせていただいて</p>

おります。

また、採用見込み者数につきましては、4月の教育委員会会議におきまして、算定方法を含め、ご報告させていただきましたので、本日はポイントのみに絞って、ご説明をさせていただきます。

はじめに、1の(1)の選考区分等についてですが、アの一般選考からキの看護科教諭特別選考までの7つの区分で実施いたします。

次に、(2)の採用見込者数についてですが、前回教育委員会会議においてご説明いたしましたとおり、全体で415人程度としておりまして、昨年度の398人程度から、17名の増加といたしました。校種別、教科(科目等)別の内訳につきましては、下の表にお示ししておりますので、ご覧いただけたらと思います。

それでは、15ページの2の受付期間でございます。受付期間は、要項発表の翌日の、5月15日から6月5日までとしております。

3の試験期日につきましては、第1次試験は7月18日及び19日の2日間、第2次試験は8月22日、23日の2日間に加え、小学校につきましては、23日から26日までの1日を指定し、個人面接を実施いたします。

4の試験会場は、1次試験は山口会場の県内3高校と、東京会場で実施し、2次試験は県内4高校で実施いたします。5の試験内容はお示ししているとおりでございます。

また、6の結果発表は、1次は8月11日、2次は10月7日としております。

次に、7の試験の主な変更点についてですが、3項目について改善、変更をいたしました。

まず、(1)の受験年齢の上限の引上げについてです。受験年齢の上限につきましては、これまで選考区分や志願区分(校種等)、教科などにより44歳以下の場合と49歳以下の場合がありましたが、全て49歳以下といたしました。

次に、(2)山口県教師力向上プログラム修了者特別選考の新設についてです。小学校の志願者で、受験資格に示す要件を満たす者のうち、平成26年度に実施しました山口県教師力向上プログラムを修了した者については、特別選考を実施するとともに、教職専門及び集団面接(討議)を免除することといたしました。

最後に、(3)小学校における個人面接の日程の変更についてです。個人面接については、これまで全ての志願区分(校種等)において第二次試験の2日目に実施しておりましたが、小学校の採用見込者数が、近年増加していることから、小学校を志願する者については、第二次試験の試験会場の収容人数等も考慮して、日程を8月22日から8月26日の5日間とし、2日目から5日目までの指定する1日に、面接を実施することといたしました。

次に、8の志願書類の請求等については、お示ししているとおりでございます。

最後に、9のその他です。要項には掲載しておりませんが、志願者確保のための取組として、教員採用候補者選考試験説明会を県内外併せて14会場で行っているところです。説明会では試験内容等につきまして、受験者に周知するとともに、現職教員による体験談等を実施しております。以上でございます。

教 育 長

はい。ただいま教職員課から報告事項1について説明がありましたが、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

岡 野 委 員

面接について再確認ですが、小学校は志願者が増えているため第二

<p>教職員課長</p>	<p>次試験の2日目から5日目に実施するという説明がございましたけれども、中学校、高校は今までどおり第二次試験の2日目に面接を行うということでしょうか。</p> <p>委員の仰るとおりでございます。小学校以外につきましては、第2次試験の2日目にすべてを実施いたします。</p>
<p>山縣委員</p>	<p>教育に関するビデオを見たのですが、それは1年間で偏差値を40上げて、いい大学に入学したという映画の話です。</p> <p>私はその映画にはあまり関心はなかったのですが、たまたま映像にとある先生が出てきまして、生徒、子どもにやる気を出させるところが非常に卓越していました。</p> <p>最終的には面接が非常に大きなウェイトを占めると思います。もちろん、ペーパーテストも受けないといけません、本当に子どもに向き合って、いいところを引き出せる人を選んでいただきたいなと思います。</p> <p>またその人は、塾の先生を色々評価しているわけですが、実に的確なことを言っています。私ももう60歳代なのですが、これは改めなきゃいけないなと思ったくらいでした。</p> <p>素晴らしい教育者とはそういう所があるような気がします。もちろん成績もよくないといけませんけれども。ただ、その判定は面接でしか多分できないと思いますので、ここにいらっしゃる方も面接されると思いますが、是非、お願いしたいと思います。</p>
<p>教職員課長</p>	<p>山縣委員が仰ったとおりだと私も認識しております。</p> <p>山口県では従来から教員ということで、一定の専門性が当然求められますことから、教職専門であるとか、教科専門も実技等、実施しておりますが、人物重視の選考をするということで、面接は一次、二次試験を通して、個人面接、集団面接を実施しているところでございます。</p> <p>この中で、面接の内容と面接する委員の資質の向上など、この辺も毎年度の改善も含め、努力しているところでございます。今、委員からご指摘いただきましたので、さらに充実させたいと考えております。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、この件につきましては、報告のとおり承ります。</p> <p>次に、報告事項の2について義務教育課から説明をお願いします。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>それでは、全国学力・学習状況調査の概要についてご報告をいたします。資料の17ページをお開きください。</p> <p>今年度の全国学力・学習状況調査は、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象として4月21日（火）に実施されました。県内の参加校数は小中学校合わせて合計452校、約23,000人の児童生徒が参加しております。</p> <p>本日はその調査問題の概要について、ご報告させていただきます。</p> <p>まず、教科に関する調査であります。資料18ページをご覧ください。小学校国語についてです。</p> <p>主として「知識」に関するA問題では、新聞のコラムを読んで表現の工夫をとらえることなど、実生活に必要な言語事項に関する問題が出題されました。</p> <p>主として「活用」に関するB問題では、資料にお示しした、一休さんの「びょうぶのとらのお話」を紙芝居にして音読するときの工夫と</p>

その理由を書くことなど、実際の学習場面や生活場面を想定した問題が出題されました。

音読の工夫とその理由が正しく記述されていれば、正答となる問題であり、自分の考えと、その理由や根拠を述べる力が問われております。なお、「とんち話」が学力調査で取り上げられたのは今回が初めてでございます。

次に、資料19ページの小学校算数です。A問題では、全領域の基礎的な内容に加え、これまで課題であった計算の意味の理解について、小数の計算場面で確かめる問題が出題されました。

B問題においても、これまで全国的な課題が見られた問題が出題されました。特に、本県でも大きな課題となっている割合について、資料にお示しをしているように、買い物の場面で割合を使って代金を求めるなど、身近な生活場面で算数を活用する問題が出題されており、示された情報をもとにして、筋道を立てて考えたり、説明したりする力が問われています。

次に、資料20ページの小学校理科についてです。平成24年度以来、2回目の実施でしたが、学習指導要領における4本の柱であります「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」から複数学年の学習内容を盛り込んだ問題が出題されました。

例えば、資料にお示しした「打ち水」の問題では、「太陽と地面の様子」は3年生、「水の状態変化」は4年生の学習内容であり、この問題のように、複数の学年で学習する内容と日常生活とを関連させた問題が多く出題されました。

次に、資料21ページ、中学校国語についてです。A問題では社会生活を営む上で、基礎的・基本的な能力に関する問題が出題されました。

B問題では、資料にお示しておりますように、東京オリンピック・パラリンピックが行われる2020年の日本がどのような社会になっているか、その社会にどのように関わっていききたいかについて、自分の考えを書く問題が出題されました。

この問題では、さらに、示された3つの資料から2つを選び、その内容を取り上げること、80字以上120字以内で書くこと、という二つの条件に従って記述することが求められております。

次に22ページの中学校数学です。A問題では小学校の既習内容を踏まえた割合に関する問題や、作図や証明の根拠となる事柄を見抜く力を問う問題が出題されました。

B問題では、資料にお示しをした、落とし物調査の統計結果から改善策を考える問題など、数学を使って日常生活の課題を解決する力を問う問題が出題されました。

次に、資料23ページの中学校理科です。中学校も、学習指導要領の4本の柱、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」から出題され、資料にお示しした、ゼリーとキウイフルーツでデザートを作る場面を取り上げた問題など、学校で行った実験の方法や結果を日常生活と関連させて考えさせる問題が多く出題されました。

次に、質問紙調査につきまして、資料の24ページをご覧ください。

学校に対する調査、児童生徒に対する調査、どちらも、今回実施されました理科に関する質問が追加されたことで、質問数は増えております。

また、今回の特徴的な質問としましては、下線部でお示しておりますように、学校に対する質問紙では、「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなど

	<p>の学習活動を取り入れている。」、児童生徒に対する調査では、「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。」のように、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）を意識した質問が追加されたことが挙げられます。以上、全国学力・学習状況調査問題についてご説明をいたしました。</p> <p>各学校では、本調査実施後、直ちに自校採点を行い、現在、学力分析支援ツールに結果を入力し、児童生徒の学力の状況や課題等の把握を行っているところであります。義務教育課といたしましては、市町教委とともに各学校の取組を一層支援してまいります。</p> <p>また、全国の平均正答率等の調査結果につきましては、文部科学省から、8月の下旬を目途に公表される予定でありますので、その後、諸資料とともに、全県的な学力・学習状況の結果をお示しすることにしております。</p> <p>以上で、全国学力・学習状況調査についての報告を終わります。</p>
教 育 長	<p>ただいま義務教育課から報告事項2について説明がありましたが、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>結果の公表は8月の下旬ですね。日程は決まっていますか。</p>
義務教育課長	<p>公表日はまだ決まっておりませんが、8月下旬を目途にということでお知らせを受けております。</p>
中 田 委 員	<p>その結果が出て全国状況、山口県内の各学校のデータが出てくると思うのですが、それをどんな風に活かされているのか、お聞きしたいのですが。</p> <p>例えば県内で、成績の一番良いところ、悪いところが出てきますよね。そういう場合、悪い方はもっと頑張ってくださいと。全国で中位なのか上位なのかは分かりませんが、その位置によっては、全体的にもっとレベルアップして欲しいと。そういう指導に使われているのでしょうか。</p>
義務教育課長	<p>この全国調査の結果につきましては、先ほども少し申し上げましたが、現在、各学校で自校採点をして、その結果を学習状況の分析支援ツールに入力して、具体的な教育指導の改善を今行っておる最中でございます。</p> <p>この結果分析により、全校体制で成果と課題を共有して、学習指導方法の改善に活かしていくという取り組みを行います。</p> <p>義務教育課では、今週から来週にかけて、各学校の分析結果を持ち寄って学力向上について研修する研究協議会を開催する予定としております。この協議会には、全国調査の問題の作成に当たった学力調査官を小中学校の各教科から1名ずつ招聘致しまして、問題の意図や、今後の授業改善にそれをどう活かしていくかということについての講演をしていただくこととしております。</p> <p>全ての小学校から1名、中学校からは国語、数学、理科担当の3名の参加ということにしておりまして、現在全ての学校で、その研修の内容を共有して、学力向上の取り組みに活かして頂きたいと考えております。</p> <p>今回このツールを作りましたのは、学校全体の状況だけではなく、児童生徒一人一人の学習の状況も把握・分析できるようにということですので、児童生徒の状況に応じた学力向上の取り組みを進めていき</p>

<p>稲野委員</p>	<p>たいと考えているところでございます。</p> <p>同じ学校で同じ学年を前年と比べても、それぞれ生徒が違うので、単純には比べられないという話はよく出ると思います。その学校の傾向として、毎年の結果を見ながら、学力が徐々に伸びているのかバラツキがあるのかは検討しないといけない部分ですが。</p> <p>是非お願いしたいのは、6年生の時に全国学力調査を受けた子供さんが中学3年生になって受けた時に、「知識」と「活用」の問題がどのように伸びているのか、そういった比較もしながら、個人それから学校全体としての差がなくなるような分析と支援の仕方を考えていただけたらと思います。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>子ども達が年数を経て、どう変化していくかということでございますが、今回の全国調査の問題には、今の中学校3年生が、前回の小学校6年生の時に受けた問題が少し形を変えて出題されているものもあります。</p> <p>そういったところを見ながら、小学校の時の課題がどう改善されているのかを確認することができるようになっております。</p> <p>また、山口県独自で、学力の定着状況の確認問題というのも作っております。これは小学校3年から中学校2年まで実施しますので、3年生の時に受けた子どもが4年生、5年生でどうなったかという経年変化を確認できるような問題になっております。</p> <p>そういったものも活用しながら、子ども達一人一人の学力の向上を図っていきたいと考えております。</p>
<p>宮部委員</p>	<p>先ほど学力テスト後に、独自の支援ツールを使って、山口県は分析・指導に役立っているということでしたが、全国的には同じような形で実施されているのですか、それとも別のものがあるのか、実施していない県があるのか、その辺をお聞きしたいのですが。</p>
<p>義務教育課長</p>	<p>全てを把握してはおりませんが、同じようなツールを活用して取り組んでいる県もあるように聞いております。ただ、全ての県が取り組んでいるわけではないということでございます。</p>
<p>教育長</p>	<p>他によろしいでしょうか。それでは、この件については、報告のとおり承ります。続きまして、報告事項3について、高校教育課からお願います。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>それでは私から、平成27年3月新規高等学校等の卒業者の求人、求職、就職状況等についてご説明をさせていただきます。</p> <p>配布資料の25ページをご覧ください。山口労働局発表の3月末資料を基に作成をした一覧表でご報告をさせていただきます。数字は下の段が今年の3月末、上の段の括弧内が昨年の3月末の数字となっております。</p> <p>求人数はAの欄にございますように、男女合わせて4,469人でありまして、昨年同期の括弧内の3,572人に対して897人、率にして25.1%の増加となっております。</p> <p>次に就職を希望する生徒の数は、Bの就職希望者数の欄にございますが、全体で3,533人でありまして、昨年同期の2,126人に対して207人、率にして7.1%増加しております。Eの未内定につきましては、昨年度より1名減少し、17名となっております。</p> <p>就職内定率でございますが、Fの欄にございますように、全体では</p>

	<p>99.5%で昨年に比べ、0.1ポイントの増加となっております、現在の形で統計を取り始めた平成7年度以降、過去最高となっております。</p> <p>なお、就職支援に係る具体的な取り組み等については、この後の意見交換前に、改めてご説明をさせていただきます。以上でございます。</p>
教 育 長	<p>ただいま高校教育課から報告事項3について説明がありましたが、ご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。</p>
山 縣 委 員	<p>本年度は去年よりも就職希望者数が多いわけですが、高校卒業者数も増えているのでしょうか。</p>
高校教育課長	<p>高校卒業者数も若干名でございますが増えています。</p>
教 育 長	<p>全体的には減少傾向ですけれども。</p>
稲 野 委 員	<p>去年は確か、就職よりも専門学校等への進学を希望する方も多かったと思います。その割合、もしくは高校卒業後、就職が前提である高校での生徒の進学希望の割合について、今年はどうのような状況でしょうか。</p>
高校教育課長	<p>就職以外で、進学あるいは専門学校等に進学をした生徒のトータルの割合については、現在、文科省で集計中でございます、正確なパーセンテージは今後明らかになるかと思われま。</p> <p>就職が厳しいときに、専門学校等に進学する生徒も多かった平成24年度のような状況もございました。</p> <p>25年度、26年度と急激な景気回復に伴い求人数も増えて参りましたので、早くから求人状況が良い時に就職しよう判断した生徒が多くいたのではないかと推測されます。</p>
稲 野 委 員	<p>そういった就職状況でのマッチングですよね。マッチング率は変わってきているのでしょうか、就職後の離職ですけれども。高校生の方が、大学生よりも離職者が多いとよく言われているので、その辺りのマッチング状況というのはどうでしょうか。</p>
高校教育課長	<p>マッチングの促進は就職支援の三本柱の一つでございますが、高校生の離職率については、平成23年3月の卒業の生徒が3年後に離職した率が約37.2%でございます。全国は約39.6%で、全国よりは若干良いという状況でございます。そうしたミスマッチを防止するために、応募前職場見学等を県教委では推奨しているところでございます。</p> <p>そういったことに加えて、内定から卒業までの期間を活用して、社会人となる心構え等について、外部講師や就職サポーター等の方々を講師に招いて、社会の情勢、企業的情勢等をお伝えいただくことで、子ども達の意識を高める取組を行っているところでございます。</p> <p>また生徒の入社後も、定期的な教員の企業訪問の際に面談を行うなど、卒業後もある程度のフォローをしている状況でございます。</p>
教 育 長	<p>それでは、この件につきましては、報告のとおり承ります。</p> <p>次に、報告事項4について、学校安全・体育課から説明をお願いします。</p>

<p>学校安全・体育課長</p>	<p>それでは、平成28年度全国高等学校総合体育大会山口県実行委員会第1回総会の開催につきまして、ご報告いたします。</p> <p>資料は26、27ページをご覧ください。平成28年度には全国高等学校総合体育大会が中国5県で開催されます。27ページの競技会場、競技日程に示しておりますとおり、県内ではバレーボールやハンドボールなど6競技、これを9市において開催します。</p> <p>この度、大会開催に向け、去る5月19日に山口県実行委員会第1回総会を開催いたしました。</p> <p>会議は、資料26ページの1の(2)にお示ししておりますとおり、会場地、それから競技団体及び関係団体のご出席をいただきまして、(3)にあります、各報告事項、審議事項について審議、そしてご承認をいただきました。</p> <p>また、(4)にありますように、県体育協会からはこの大会に向けての「競技力向上対策について」、そして県高等学校体育連盟からは県内すべての高校生で大会を盛り上げていくための「高校生活動の推進について」、ご説明をいただくなど大会を成功に導いていくために、関係機関との連携、協力についてお願いしたところでございます。</p> <p>会議の終わりには、県実行委員会が作成致しました大会PR用の横断幕を、廣川教育次長さんから県内開催6競技の高体連専門部長に、贈呈していただきました。横断幕はこれから県内の競技大会や会議、イベント等で掲揚していただきまして、大会開催機運の醸成に役立てていただけるものと考えております。</p> <p>今後は、7月下旬から和歌山県を中心に近畿ブロックで開催されます今年度の全国高等学校総合体育大会の視察、そして8月には第2回の総会の開催などを予定しております。以上で報告を終わります。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>ただいま学校安全・体育課から報告事項4について説明がありましたが、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>6種目にわたって本県で開催されるということですが、よろしいでしょうか。それでは、この件につきましては、報告のとおり承ります。</p> <p>それでは続きまして、意見交換に移りたいと思います。</p> <p>本日の意見交換のテーマは、「専門高校等における職業教育の充実及び県内就職推進に係る取組について」、高校教育課から準備ができた次第、説明をお願いします。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>それでは、専門高校等における職業教育の充実及び県内就職推進に係る取組について、ご説明させていただきます。</p> <p>まず、専門高校等における職業教育の充実について、ご説明をさせていただきます。</p> <p>最初に、県内高校生の状況についてでございます。この表は、昭和49年度から平成26年度までの本県高等学校の生徒数の推移を表したものでございます。昨年5月時点での生徒数は、35,058人で、この間、平成元年度のピーク時の73,416人に対して約50%まで減少しております。</p> <p>また、平成26年度の学科別の生徒数の内訳でございますが、割合にして普通科が59.4%、専門学科が34.7%、総合学科が5.9%となっております。生徒数が減少する中で、専門学科に学ぶ生徒の割合は、ここ25年間は、概ね34%前後の範囲で推移しております。なお、平成26年度の学科別の生徒数につきましては、ご覧のとおりでございます。</p> <p>現在、各専門高校におきましては、学習指導要領を踏まえ、将来のスペシャリストの育成、将来の地域産業を担う人材の育成、人間性豊</p>

かな職業人の育成に向けた職業教育の充実に努めているところでございます。

昨年度改訂いたしました山口県教育振興基本計画の中の「緊急・重点プロジェクト」の一つとして、ものづくり人材育成プロジェクトがございます。このプロジェクトは、子どもたちが地域産業を理解し、ものづくり等への興味・関心を持つとともに、将来の地域産業を担う人材となれるよう、地域や産業界等との連携を深め、実践的な学習活動の展開やきめ細かな就職支援の充実に努めることを目的としております。

具体的な取組としまして、昨年度、産業人材実地セミナー事業、スキルアップ支援事業、産学公連携カリキュラム充実事業、未来創造チャレンジ事業の4つの事業を展開いたしました。

それでは、各事業内容と成果等についてご説明いたします。

まず、産業人材実地セミナー事業についてでございます。本事業は複数の業種の実地セミナーを通して、他業種を踏まえた専門分野に係る意識の啓発・視野の拡大を図るものでございます。昨年度の取組例をお示ししておりますが、例えば、奈古高校では、農業分野を学ぶ生徒が、食品製造業と建設業を営む企業を訪れております。

また、下関工業高校では工業分野を学ぶ生徒が、航空宇宙関連事業と植物工場についてのセミナーを行っております。

さらに、周防大島高校では、福祉分野を学ぶ生徒が、近隣の福祉施設や商業施設を訪れ、地域理解も兼ねたセミナーを実施しております。

このような取組によって、生徒は自身の専門科目と専門科目以外の業種との繋がりを学び、そのことで、新たに自己の専門分野の有用性や価値観を見いだすことができたと考えております。

次に、スキルアップ支援事業についてでございます。この事業は資格取得を通して、自己の専門性を深めるとともに他分野の資格にも挑戦する精神の育成を図るもので、昨年度は、初級セミナー、中級セミナー、上級セミナーを実施いたしました。生徒はこのセミナーの受講等により、産業界のニーズに対応した各種資格を取得するとともに職種選択の幅を拡げているところでございます。

資格取得に係る支援事業は平成25年度から実施しておりますが、高度な専門的資格や、複数の資格を取得した生徒が受賞する山口県高等学校等職業教育技術顕彰受賞生徒の割合は、平成26年度は21.6%でございます。年々増加しております。

次に、産学公連携カリキュラム充実事業についてでございます。

この事業は、産学公と連携をした課題研究等の取組を通して、実践的な知識・技術の習得を図るもので、昨年度は13校が取り組みました。例えば、田布施農工高校では、酒造会社から、講師を招き、酒づくりに係る講義や実験・技術指導をしていただきました。

講義では、講師の方が実際に吟醸酒など様々な種類の日本酒を持参され、生徒はその香りの違いを体験することができるなど、より実践的な指導を受けることができました。

また、下松工業高校では、小・中学生を対象にしたものづくり教室やキャリアアップセミナーを開催しました。夏休み期間中に、小学生を対象にした電子工作教室では、非常災害時などに携帯電話や電池に充電することができる手回し発電機を製作しました。参加した小学生、製作指導に当たった高校生とともに、大変充実した時間を過ごすことができたということでございます。

このような取組を通じまして、生徒の実践的知識・技術の習得や定着が進むとともに、学校と地域・地元企業との相互理解も促進された

と考えております。

次に、未来創造チャレンジ事業についてでございます。この事業は全国大会優勝等に向けてチャレンジする、そうした取組を通して、高い志を持ち、チャレンジし続ける積極性と創造性の育成を図るもので、昨年度は9校が取り組みました。

岩国工業高校は全国高等学校ロボット競技大会でベスト8、特別賞である宮城県知事賞を受賞しております。これは、優勝した学校に惜敗したことが評価されたと思われます。宇部工業高校は高校生ロボット相撲全国大会の自立型で2位、ラジコン型で3位でございました。

また、厚狭高校は被服等の作品づくりに係る全国高校生クリエイティブコンテストで全国3位に相当する優秀賞を受賞しております。

なお、この他にも、各専門高校等におきましては、それぞれの学校・学科の特色を生かした取組を積極的に行っております。資料の14ページから17ページにかけて掲載しております。

平成26年度の職業教育の充実に係る取組について、ご説明させていただきますが、専門高校等に入学した生徒は、これらの取組を通して、基礎から標準、応用、発展と系統的に学ぶことで、各専門分野に必要な実践力だけでなく、社会の変化に対応し、自らの将来や社会を切り拓いていく力をつけていくこととなります。なお、これらの事業は平成27年度も継続実施することとしております。

ここで、生徒が挑戦しております全国大会の一例としまして、一昨年度に愛知県で開催されました全国高等学校ロボット競技大会の映像をご覧ください。

(動画開始)

最初は他県の高校生の映像が続きますが、最後に本県の岩国工業高校の映像がございます。

この大会の競技レベルは非常に高く、愛知大会では人がコントロールするロボットが障害物のあるコースを周り、階段を上って、LEDランプを点灯させる時間を競うものでございます。

この学校は時間内に点灯させることができませんでしたので、失格ということになります。これが岩国工業高校の映像です。

以上、全国高等学校高等競技大会の様子をご覧くださいました。

(動画終了)

それでは続きまして、県内就職推進に係る取組について、ご説明させていただきます。

まず、高等学校等を卒業した生徒の就職状況等についてでございます。この表は、平成26年度卒業生の就職状況について、山口労働局発表の3月末現在資料をもとに作成したものでございます。先ほどご報告いたしましたように、求人数、就職希望者数、就職内定率とも平成25年度を上回っております。

なお、就職が決定しないまま卒業した生徒につきましては、今後も、各公共職業安定所や山口県若者就職支援センター等の関係機関と連携を図りながら、就職相談や就職のあっせん等に努めてまいります。

次に、県内高校卒業者の進路状況についてでございます。これは、平成元年度以降、5年ごとの山口県の高等学校卒業者の大学等進学者、就職者の状況をお示ししております。平成元年度には、就職する生徒が大学等進学者を上回っておりましたが、就職する生徒は減少し、平成6年度には32.0%となりました。その後は、24%から31

%の範囲で推移し、平成25年度に卒業した生徒の就職率は、28.6%になっております。全国平均は17.5%でございますので、本県は高校を卒業して就職する生徒の割合が非常に高いといえます。

次に、県内就職率についてでございます。このグラフは平成10年度から平成25年度までの高校生の県内就職率を表しておりますが、平成13年度以降は、概ね80%を超えて推移し、平成25年度については、83.1%と全国平均の81.8%を上回っております。

高校生の就職支援については、ガイダンスの充実、求人開拓の強化、マッチングの促進を3つの柱として、関係機関と連携をしながら、やまぐちの元気を支える高校生県内就職推進事業を中心に展開しているところでございます。

この事業は高校生の県内就職を総合的に支援するもので、就職サポーター等配置事業、県内企業訪問推進事業、県内就職促進協議会、県内企業就職説明会、県内就職ガイダンス等充実事業で構成されております。

就職サポーター等配置事業は、32名の就職サポーターが、就職相談や新規の求人開拓等を行うものでございます。さらに3人の就職サポーターがそれらの情報を集約、共有することで、県内広域での迅速なマッチングを推進してまいります。

加えて、3人の総合支援学校就職支援コーディネーターが、総合支援学校の生徒の現場実習先の開拓や就職支援を行っております。就職サポーターは、近隣の企業情報に精通しており、生徒に地域企業の情報や魅力を伝えるとともに、生徒の希望に応じた求人開拓をするなど、高校生の県内就職に大きく貢献をいただいております。

県内企業訪問推進事業は、高校の管理職や進路指導担当者などが企業訪問を行い、求人依頼や卒業生の就職、職場定着指導を行うものでございます。

また、生徒の応募前職場見学を実施することで、生徒の企業理解を進め、主体的な進路選択ができるよう支援をしております。また、5月の求人確保促進月間には、高校生の県内就職を促進するため、県教委の幹部職員が知事部局と連携をしながら、直接企業に出向いて、求人依頼等を行っております。

次に、県内就職促進協議会は、今年度は5月19日から6月9日までの間に県内7か所で開催をしているところでございます。この協議会では、学校の進路指導担当者と企業の人事担当者などが一堂に会して、雇用状況等や学校情報などの情報交換を行うこととしております。

次に、県内企業就職説明会は、未内定者の就職内定に向けた取組でございまして、10月以降に実施しております。学校の進路指導担当者や未内定の生徒が参加し、直接企業の人事担当者と面談することで、生徒の企業理解を深め内定につなげております。

次に県内就職ガイダンス等充実事業の地域産業魅力発見セミナーでございまして、これは新規の取組でございまして。この事業は、県内企業等地域の魅力を伝えるため、商工会議所等、産業に見識の深い方や地域の活性化を目指した取組に携わっている方を学校に講師としてお招きして、セミナーを行うものでございます。

また、地域産業就職ガイダンスは、就職に向けた意識の醸成を図るため、各学校において、若者就職支援センターなど関係機関と連携をし、雇用状況等就職情報の提供や社会人としてのマナー等についてガイダンスを行うものでございます。

県教委では、今後も引き続き、関係の方々のご協力を得ながら、こ

<p>教 育 長</p>	<p>これらの取組を通して、就職を希望する生徒が一人でも多く県内の企業に就職できるよう、積極的に支援していくこととしております。</p> <p>以上、専門高校等における職業教育の充実と高校生の県内就職推進について、現在の取組をご説明させていただきました。</p> <p>本日、この後の意見交換で特にご意見をお伺いしたい点は、職業教育の充実に関しましては、「子どもたちのものづくり等への興味・関心の向上」、「産業界のニーズへの対応」、「産学公との連携の在り方」について、などでございます。</p> <p>また、高校生の県内就職推進に関しましては、「地域や県内企業の魅力の理解促進」等についてでございます。現在の取組の課題や改善点、あるいは新たな取組のご提案等についてよろしくお願いいたします。以上でございます。</p> <p>ただ今、高校教育課から、取組状況について説明がありました。</p> <p>いろんな資料の説明がありましたが、ご意見とかご指摘等を含め、意見交換をしたいと思います。</p> <p>どなたでも結構でございますので、気がつく点があったらお願いいたします。</p>
<p>宮 部 委 員</p>	<p>資料の9ページに県内高校卒業者の進学状況とありますが、大学等への進学が42.2%で、就職が28.6%。全国も一緒ですが、残りの約30%の生徒の進路はどうなっているのでしょうか。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>25%程度の高校生は専門学校へ進学している状況でございます。</p>
<p>山 縣 委 員</p>	<p>工業高校等の県内就職率が他県より高く、平成16年くらいから県内就職率が上がっている要因は、山口県の企業に魅力を感じた生徒が増えているということ、山口県内の企業の求人数の両面があると思いますが、今の県内就職を推進する事業はかなり以前からあったのでしょうか。それとも、ここ数年からでしょうか。それによって、今のこの数字の意味がなんとなくわかってくると思うのですが。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>県内就職に係る高校生への就職支援でございますが、平成元年当時から続けている状況で、山口県には工業の町、集積工業地帯もございますので、専門高校の比率も高いということもございます。</p> <p>県内の専門高校等を中心に、就職を希望する生徒の多く、実際には80%を超える生徒が、保護者も含めまして県内就職を希望している状況でございます。</p>
<p>山 縣 委 員</p>	<p>今年度で言えば2,568人が県内就職で、県外就職が565人。この県外就職565人は3,000人のうちの20%弱ですが、これは気になった仕事が県外にあるからか、またいつか県内に戻ってくるのかどうかですね。</p> <p>他県に比べても、環境としてはいいのではないかと思います。昔、同業者が秋田から来たときに、その人を宇部から連れて県内を回ったところ、「秋田には何にもない、米があつて、田んぼがあるだけだ」なんてことを言っていました。山口県では工業高校出て、色んな企業があるわけですから、非常に羨ましがられるのは当然だと思いますので、それを活かして山口県に若い人が定着していくようにして欲しいと思うわけです。</p> <p>この3,133人のうち565人の内訳、元々が山口県外を希望していたのでしょうか。</p>

<p>高校教育課長</p>	<p>各学校の卒業生がどこに就職しているか把握しております。山口県内でも地域によって多少の差が見られます。例えば、県境付近の岩国地域等は、広島県が生活圏内に入るので、居住地は岩国市ですが、就職は広島県というケースもございます。</p> <p>実際に県外に就職する生徒は、広島県や福岡県といった近隣県が多くございます。もちろん、一部は関西、関東といった地域に就職する生徒もございます。</p> <p>山口県内に就職、近隣の県に就職するといった生徒の数字が、この数字の中に反映されておりませんが、実際には県外就職の希望が若干多いかと思えます。</p> <p>ただ、委員が仰いますように、県内に優良な企業が沢山ございますので、そうした魅力も伝えていきながら、人口定住といった観点からも、可能であれば多くの高校生に県内就職していただきたいという強い思いはございます。</p>
<p>山 縣 委 員</p>	<p>私は県内の普通高校を出ていますが、同級生はやっぱり県外へ行って、戻ってこない人が大半ですね。山口県という地域が持続可能な県であるために、高校の存在が重要だと強く感じていますので、ますます頑張ってくださいと思います。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>今後、卒業して県外等に就職をしたり進学したりする生徒もいるわけですが、県内の企業を紹介した冊子「きらり！やまぐち企業ナビBOOK」をすべての学校に配布しております。こういったものを進路指導室に置いて生徒に見てもらいます。</p> <p>また、YYジョブサロン登録の案内、これは平成26年度から全ての学校で卒業する生徒に配布していて、山口県若者就職支援センターに登録してくださいというのですが、こういった情報提供等を継続的に行うことで、県外に進学する生徒にも県内の就職情報等が伝えられるよう、努めている所でございます。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>県外に就職する高校生が500名を超えるという、先ほどのお話ですが、この前に調べたところ広島は200数十名、福岡が60名前後でしたか。あと、大阪が50名前後ぐらいかなと思います。</p> <p>広島に出て行く生徒については、岩国の工業高校の生徒等が、広島へ就職する例が多いと思います。ただ、その生徒が岩国に住んで広島へ通っているか、広島に住所を移しているかは分からないのですが、そういう状況が実はあります。就職したくても就職先がないということがあるようです。</p> <p>もう一つが人口を減らさないための対策ということで、県内就職のお話がありましたが、前の前の前の知事かな、平井知事の辺りからですね、いわゆる人口定住ということを強く目指して、当時は確か160万県民と平井知事は言われていた、そういう時代がありました。ちょうど私が県庁に入った時ですね。それから20年数年経って、人口が140万人です。人口定住という県の施策を打ち出しても、やっぱりどんどんどんどん減っていくという。</p> <p>それで実はある推計ですが、140万人が2060年ぐらいには、今から45年先には、だいたい77万人ぐらいになるのではないかと思います。</p> <p>さらに40年経って、要するに2100年ぐらいには40万人を超えるくらい、下関市の人口よりちょっと多いぐらいの、県全体の人口になるという推計もあるようです。</p>

<p>山 縣 委 員</p>	<p>先ほどの就職率が28.6%と他県に比べて高いというお話しですが、それはもちろん高校の学科が、普通科よりも専門の工業商業等の割合が他県よりも大きいというのがあります。</p> <p>その28.6%の就職率の中でさらに83%が県内に残っているにしても、やはり人口がこれだけ減るのをなかなか歯止めがかからない。働く場というのもあるのでしょうか、高校生のうちから、小中学生のうちから地元を大切にするような気持ちを育てていくことも非常に大切ではないかと。いわゆるコミュニティースクールの教育においても、非常に大切な地域の人に助けられているという意識が大切じゃないかなということ、できるところから取り組みをしていこうと考えています。なかなか難しいのですが。</p> <p>大学卒業後、企業に就職して東京に住んでも生活レベルは山口県と全然変わらないと思います。だから、山口県が恵まれているということ、さっきも言ったのはそういう事で、小中高である程度分かるように家庭教育の中で教えるべきではないかと思えます。学校教育の中にもそういう事も出していかないと、山口県はまさに少子高齢化が一番激しいところですから。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>他に何かございますか。</p>
<p>宮 部 委 員</p>	<p>ここ数年ですが県内就職のうち製造業について、一部上場会社、大手企業と地元企業への就職率はわかりますか。</p> <p>実はミスマッチで、この数年景気が良くなりまして、地元の企業は今どの企業もそうでしょうが、求人しても一人も来ないというのが高卒大卒含めてそういう状況です。</p> <p>景気が悪いときは、一部上場会社はピタッと求人を止めます。そうしたら、求職者は県外に出るのか、仕方なしという言葉がいいのか分かりませんが地元へという流れになるのでしょうか。地元の中小企業というのは、人材をずっと継続的に確保して、生きていかなければならなくて、今はそういう大変な状態になっています。建設業の話をして申し訳ないのですが、全く求職者がいません。</p> <p>岩国工業高校の都市工学科という専門的な土木の技術者を養成するところですが、そこからの採用は、ここ数年では0人ですね。</p> <p>それまでは採用をお願いされる側であったのですが、世の景気と共に、そういった生徒が普通の三交代の製造業に就職している。土木建築を目指すのではなく。</p> <p>山縣委員さんが言われたように、やっぱり教育の中で社会見学とかインターンシップとか沢山しているのですが、なかなか子ども達にはそれが伝わらないということがあります。問題は就労条件なのでしょうが、条件がやっぱり倍違うからそういう形になるのでしょうか。その辺で今、どのくらいの割合なのかなと。</p>
<p>高校教育課長</p>	<p>企業規模別の就職率の分析は現在していないところでございます。</p> <p>今、建設業のお話しもいただきました。先般、高校の進路指導担当者が集まる会議の中で、土木建築の関係の部署からもそうした教員を対象に、そういった業界の内容を伝える場を設けたりするなどしております。色々な業種、企業について地域産業の魅力を伝え、そして、それを理解した上で、子ども達が最終的に選択するわけですが、私たちとしましては、そうした地域産業の魅力を伝えることに努めていきたいと考えております。以上でございます。</p>

岡野委員

山陽方面では働く場所がまだあるようでございますが、山陰の方には働く場所が実際ないです。

私たちが今不安に思っていることは、山口県は三方海に囲まれて一方山ですよ。ということは、本当は一次産業が盛んじゃないといけない所です。農業高校も、奈古高校も今後は分校という形になりましたが、農業高校に行ってそこで農業に就く子どもはいない。水産高校に行ってもそのまま漁師になる子どももいない。そういう現状を、何故かということ、まずみんなで一回考えないといけないのではないのでしょうか。

やっぱり「地元に残れ」と言っても、生活ができないと残らないわけですから、「この学校を卒業したら僕は農業に就くんだ」ということが言えるような社会作りと言いますか、そういうことは私は萩に居て、いつも思うんです。

皆さんは「外へ出るな」と言われますが、外に一回出して、外から山口県を見て山口県の良さを見つけて、山口に帰って来れるような地域づくり、これも大きな課題の一つだと思います。

出て初めて自分の故郷の良さというのも分かりますから、「出るな」だけじゃなくて、出て行った後ここへ帰って来て、生活できるようにする。そのためには一次産業の企業化を、教育委員会だけではできないと思いますから、県庁の関係部署と連携を取りながら、生活できる環境作りを考えてやらないと、私はちょっと無理じゃないかなと思います。

そういう環境ができれば、農業高校に行って専門的な勉強をして、また大学に行っても、また帰ってこれる、働く場所があるんだと。そういった社会作りというものを、一度考える価値はあるんじゃないかなと思うんですね。

それと高校生が色んなところでコンテストとか競技大会に出て、山口県はたくさん受賞するじゃないですか。みんな目標があり、そういった達成感を感じて、ものすごくうれしいと思うんです。モノ作りっていうものはそうなんだと思います。目標があって、それに夢を持って、成功した時の喜びというのは、やった者でないとわからない。

これをもっと奥深くやっていこうと思うと大学に進学したり、それ以上のところに行って身に付けて、その人がまた山口に帰ってきて、活力に繋がる。私は外へ出て帰って来れるような、達成感を感じた子供と言うのは絶対良いものを持っていると思いますから、そういうことが山口県の中で活かせるような社会を作ってほしいなと思います。

今、一次産業の企業化について萩の方でもそろそろ考えよう。

土地がいっぱいあるんですよ。使わない土地がいっぱいあって、農業しようと思ったらいっぱいあるし、空き家もたくさんあります。それを活用ということで、まず企業化することによって、今後は定住させるとことも一つの方法だと思います。その辺も少し考えてもらっていいなと思ったのと、先ほどの説明の中で、生徒の希望に応じた職業ということと言われていたのですが、生徒の希望に応じた職業と言うのは山口県ではどういったものかと。ちょっとそれが気になりました。山口県の生徒達がどのような職業を希望しているのでしょうか。

高校教育課長

私も以前、ある商工高校に勤めておりました。商業と工業の学科の生徒の就職の志望先ですが、工業の生徒はやはり製造業の希望が高い。それも自宅からそう遠くない、いわゆる生活圏内にある企業に対する希望が多い傾向があるように思われます。

それから商業の生徒に関しまして、やはり事務、販売といった職種を希望する生徒が多い傾向があると思います。私の勤務しました学校

<p>教 育 長</p>	<p>の一例を申しましたが、全県的にはやはり同じような傾向であるかと思われま</p> <p>先ほど、いろいろお話がありましたが、一旦外へ出て行っても帰って来れるような地域づくりですね。現実には定年退職されてから帰って来られるという方もいらっしゃると思います。</p> <p>それについても働く場所ということで、もちろん今、知事さんが企業の誘致であるとか、あるいは子どもを単身で育てる環境作りであるとか、いろんな取り組みをされておられますが、ますますそういう取り組みを進めていかないといけないと思います。</p> <p>もちろん山口県の知事部局と連携していないわけではなくて、色々な取り組みはするけれども、それがどれだけ実効性が出てくるかということですよ。</p>
<p>岡 野 委 員</p>	<p>農業高校の生徒が農業に就かないのはどうしてかなとか、水産関係の就職でも、大きい船には乗りたいけれども、小さな船には乗りたくないとか。そこに就職がないのは、楽な仕事を選んでいるというか。</p>
<p>稲 野 委 員</p>	<p>岡野委員さんが言われていた、漁師になる人がいないというお話ですが、実際の話、魚自体が減っていて魚が獲れない、特に瀬戸内は獲れないという話もあります。</p> <p>何故かという藻場がない。では、藻場をどうやって作るか。実際そういうことに携わる人が少ない。いろんな水産大学校にしても、水産高校にしても、良い先生は多くいるのですが、そういった実地の部分での定着、企業を含めたものがない。そうするとそこには就職できないので、他業種に行かざるを得ないということもかなりあるようです。</p> <p>先ほどの教育長のお話しにもありましたが、定着率の問題、就職をする専門専科を出て、「こういう仕事がしたい」と言って、専門学校に行く子もいれば、とりあえず入れる所に入って、その学校に求人情報が来ている就職先にとりあえず就職する子もやっぱりいるんですね。</p> <p>私も精神科医なので、不適応というか、就職がうまくいかなかった人の相談を受ける中で、「そんなに好きじゃないけど、とりあえず入れる学校に入って、就職できるところに行って、頑張ってみたけどそこじゃ頑張れなかった」というのがあります。実際にどんどん人が辞めていき、勤務条件が厳しくなり、定着率が悪くなる。それによって、また条件が悪くなる。どんどん定着してくれる人がいなくなるという状況もあります。</p> <p>そういうことだと職場改善をお願いしないといけなかったりとか、就職する時点とそこから先が違うということもあるので、先のことを考えた就職、定着率等も考えないといけないと思います。</p> <p>3年の離職率の話ですが、その3年の離職率の中で男女比はどうなっているのでしょうか。</p> <p>例えば、高校で卒業したとして、ちょっと早ければ3年後は結婚している女性もいます。そうすると、女性の職場定着と言いますか、子育てしながら働ける環境を整えていかないといけない。どうしても女性が家庭に入ってしまうと、せっかくの技術技能を持っても定着しない。</p> <p>そこで定着率が下がるし、実際に働こうと思うと、今度は子供が少なくなってしまう。そうすると人口が減っていくという悪循環が起こるのでどうするのか。たぶん教育だけの問題ではなく、知事部局の、</p>

特に知事が言われる女性の就職支援の部分だと思えます。

各業界では男女共同参画の活動は、一応形としてはできていると思えます。でも、その推進については各市町村で全然違うということもあり、各市町村の足並みが揃わないと県全体で活動が進まない感じになってしまうと思えます。そういう意味で、教育だけではどうにもならないところ、全体を考えないといけないと思えます。

県内の就職希望と実際の就職のパーセンテージは基本的にはよい状況なので、就職支援で非常に色んなことをされていることの成果が出ているのだと思えます。でも、就職後をいかに定着させていくかを考えて対策を考えていかないといけないと思えます。

県内就職の推進の取組の中で、職場見学、インターンシップなどを色んな職種について、普通高校でもやっていますよね。キャリア教育であるとか、将来についての教育を。そういう取り組みが非常に上手くいって、子どもさん達なりの夢も持っていると思えますが、現実はそのとおりにはいかないこともあると思うので、それは教育以外からの支援も必要ではないかと思えます。

それから気になったのが、5ページの山口県の高等学校等職業教育技術顕彰の受賞者のパーセンテージが上がっているという部分です。この顕彰はどのようなものか教えていただきたいと思えます。

また、先ほど色んな賞を受賞されているというお話でしたが、私の患者さんに自閉症の子どもさんがいて、アビリンピックで金賞を受賞した方がいます。その子は、県外、東京とかから就職のオファーが来たけど、その子は親元を離れて東京とかにまで行って就職する自信はないので、県内で就職を希望したけど、結局、就職がなかった。

その後、その子はなんとか障害者枠で就職したのですが、その子は、「アビリンピックに行っても金賞を取ったけど、何にも役に立たなかった。」と言っていました。少し自信も喪失していました。

取った賞が就職に結びつけば、それがその子のモチベーションを上げることにもなると思えます。そういった賞を受賞した子が県内で就職できる道があるのか、受賞した子どもさんが実際に就職するときどれぐらい生きてくるのか。就職において、受賞したことをアピールする部分もあると思えますが、それが生きて来ないとモチベーションが下がると思えます。

その辺を実際の就職に活かせるものなのか教えていただけたらと思えます。

教 育 長

たくさん質問がありますが、離職率の男女別の割合について、技術顕彰の内容について、それからアビリンピックも含めて受賞したものが就職に結びつくような方法について、なかなか難しいご質問を受けたんですが、答えられる部分についてよろしいでしょうか。

高校教育課長

離職率に関するご質問でございますが、これは男女比でしょうか。

それから次のご質問で、職業教育技術顕彰でございますが、これは平成6年度からの県教委と県の産業教育振興会による顕彰制度でございます。生徒の目的意識や学習意欲を高めて、職業教育の振興を図ることを目的としております。

今、資料として掲載しております数字は、資格のなかでも3つの基準に分けたうちの一番レベルが高いもの、高校生にはなかなか取得困難と思われるレベルの資格を取得した生徒を顕彰するものでございます。

こちらを進路の方に利用させていただきまして、平成29年度までには是非25%程度まで引き上げたいと考えているところでございます。

特別支援教育推進室次長

。私からは以上でございます。

稲野委員からアビリンピックのお話を伺いました。

私の記憶間違いでなければ、確か大変優秀な成績を残されたお子さんであったかと思えます。すぐに就職できなかったということも承知しております。

大変残念なことではあると考えておりますが、就職できなかった要因がどこにあったのか。技術的なことだけではなくて、コミュニケーションのこととか、総合的に考えるところであると思えます。

今、総合支援学校では職業教育の充実等に力を入れております。職業能力や対人関係であるとか、そういったものも含めて、しっかり取り組んで、就職に結びつけられたらと思っております。

中田委員

おおよそ大事なことは、他の委員さんが言われたような気がします。非常に短期的に困難な問題は、人口問題ですね。これは今、山口県に我々が住んでいるので、どうしても地方の立場で言うことになります。

一時的には、東京を始めとする都会に人口が集まっているのだと思います。でも、これからの人口を考えた時、予測を見ると決して都会が安閑としていられないと。つまり、出生率自体は、女性の合計特殊出生率ですが、それはもう東京なんかが一番低いわけですね。東京は、今は成人が多くても、50年、60年経った時には急激にもう人口が減ってくるということです。一時的な人口移動はありますが、日本全体としては地方でも都会でも同じような問題は生じるということです。

この解決策は特になのですが、皆さんご承知のように、中国が最近少しだけ人口政策を変えてきました。これまでは、長い間、一人っ子政策というのをやっていたわけですね。

しかし、人口が減りすぎたということの反省として、夫婦の両方とも一人っ子の場合、子どもは二人までいいですよとか、あるいはもう、夫婦の片方が一人っ子なら片方兄弟がいても二人以上産んでもいいですよとか、いろいろと増やす政策を執っているんです。そして、中国は国民が自主的に減らしたわけじゃなんですね。国の政策によって、二人目を産んだらペナルティを科すから、それはとても耐えられないので、一人に抑えていたわけですね。

だけど、日本の場合はそんなことをせずに、もう自然に少なくなった。つまり、子どもを産んで育てるということが、仕事をするとか色々な他の過ごし方との兼ね合いで、必ずしも人生を豊かにしないと。総合的に見て、子どもがあんまり多いよりは少ない方が自分の人生は豊かなんだと。こういう価値観が相当普遍化してしまって、お金の問題も大きいと思うんですね。教育資金が非常にかかることも思うんですけど。

でも、お金だけだったら、かなりお金を持ってそんな家庭でも子どもを1人しか生まないという家庭だっていっぱいあるわけです。自分の時間を何に使うのか、非常に自由裁量が与えられているので、子どもを育てていくよりは、自分のために時間を使う方が人生を有意義に使えるというような価値観があると思うんですね。

もうちょっと将来のことを考えて、このままでは大変だというのはみんな思っているはずなので、日本が持続的に世界の中である程度の地位を占めていくためには、ある程度の人口は確保できないといけないんだというような教育をやっていかないとはいけません。

色々な政策は安倍首相が執られていますから、そういうものがだん

だん効果が出てくればいいと思っています。

先ほど稲野委員や岡野委員から離職率の話が少し出たと思います。3年間での離職率、高校生で就職した方が37%ぐらい離職されるということで、すごい率だなと思ったんです。決して大学生も低くないのですが、大学生の場合はもうちょっと高校生の時より時間が経っていますから、それなりに考える時間があるので、そこまでは高くないと思います。

その原因分析がきっちりできているのかなと。つまり、何で辞めたかということについてです。推測される理由として、一つはうまく人間関係が築けなかったこと。これは最近の若い人に特徴的なことですね。あとは、特に工業系の学生さんなんかは、技術について高校教育と現場とで合わない。技術が高いとか低い以上の事も含めて、合わないということもあるのではないかなと思うんですね。

あるいは県庁のような公務員でも、業績評価を言われていますので、目標を設定してその目標が、一年経った時に、必ずしも達成できていない。こういう理由で上司に強く目標の達成を言われる。「お前は給料泥棒か」というようなことも言われるわけです。こういうことがもう耐えられず、辞める人もいます。

辞められる方がこれだけの比率でいるので、どういう理由で辞めたのかというフォローがいるのかなと。

そして、企業の方も「こういう人材が欲しい」という希望があると思います。「こういう能力、こういう人格が形成された人」ですよ。普通の付き合いができる人、こういう人が欲しいんだということをもうちょっと具体的に要望を出していただけて。ミスマッチがこれだけ多いと無駄が多いですよ。一年でほとんどまだ役に立っていない人が辞めるわけですから。企業にとっても、本当にお金を捨てたみたいになっているわけです。

短期的に言えば、この部分を少しでも改善して、なんとかミスマッチが少なくなるように。そして、仕事を辞めるのはしょうがないので、その辞めた後に別の仕事、別の会社に行くときに、どういう能力を身に付けたらこういう会社には就職できるのかとか、そういう職業教育みたいなものが準備できたらいいんじゃないかなと思います。

これは県内だけじゃなくて、本当は全国規模で「こういう能力を身に付ける人は、ここに行って身に付けてください」とかですね、そういう事をやったらいいんじゃないかということなんです。

もう1つ、資格というか賞を取ったということ言われていたのですが、職業高校の場合は色んな資格を取っている子もいますよね。今の職業教育、商業の方ですが、以前に比べるとどうしても社会のニーズが多様になっていると思います。昔の商業高校だと、簿記やそろばんとかの計算能力に非常にウェイトを置いた教育がされていたと思います。

だけど、国際化が進んでくると語学も必要ということで、英語も勉強しなきゃいかんとか、パソコンの基本的なことも勉強しなきゃいかんのだということで、色んなことを勉強しないといけない環境になったわけです。そこで商業高校とか総合学科を持っているところは、そういう専門性をずっと掘り下げるのではなく、広くいろんなことを浅く勉強させるという方向に変わっているんじゃないかなと思います。

現場の企業から言うと、簿記二級を持っている学生が来ても、はっきり言うとそんなに戦力として役に立たないわけです。もう、沢山良いソフトがあるわけですから、その程度の知識ならば別に全く知識がない人が来ても十分やっていけるわけですね。

本当に役に立つレベルで言ったら、やっぱり一級ぐらいは持ってい

	<p>ないと、あるいはもっと良い事を言えば、税理士とかですね、会計士の資格を持っていれば良いわけですね。</p> <p>ということで、各専門高校の場合は社会に通用するようなレベルのところまで指導しないと、それを認めてくれないということが実際にはあるわけです。語学でも、TOEICとかTOEFLがありますが、最低レベルのところを取っても、これはもう教養として取っているだけで、実践で役に立つレベルではないですよ。パソコンでも何でもみな一緒ですよ。だから、やっぱり広げることが確かに大事なことだとは思いますが、我々社会人として生きていくには、仕事について行く、仕事を取っていくという立場から言うと、専門性をあんまり諦めるのではなくて、もっと掘り下げていくことが大事だと思うんです。</p> <p>1つ例を言いますと、山口大学の経済学部は職業体験コースというものがあります。普通高校から入学して、1年生の10月から始めて、3年生の11月に会計士の試験がありますから、これに合格させるんです。2年間で簿記一級どころか会計士の5科目が取れるんですね。だから、これはもう教育次第なんです。難しいと思っけていても現に毎年2人は必ず合格者が出るわけです。</p> <p>商業高校で言うと、1年生から3年間でようやく一級なんて、そんなに時間をかけちゃいけませんよということですよ。</p> <p>ゼロの段階で入ってきた人が2年間で会計士を取れているという現実を見たら、もっともっとやり方によってはレベルの高い一級ぐらいはみんな持って出るという教育が、私はできるんじゃないかと思えます。いくつか言いましたけれども、普段目にしていることを意見させていただきました。</p>
教 育 長	<p>大変難しいお話をいただきました。高校教育はある程度の必要な基礎的な知識を満遍なく身に付けなければならないという問題もありますし、それにプラスして尖らせる部分というのがありますが、これもなかなかすぐ結論は出ないんですが、参考にさせていただきたいと思えます。離職の理由は調べていますか。</p>
高校教育課長	<p>先ほどお伝えした数字でございますが、これは山口労働局が雇用保険の喪失とかをベースに公表している数字でございますし、そのなかに先ほどの男女比はございませんし、離職の理由についても正式な分析というのは出ておりません。</p> <p>傾向としては、近年、平成17年当時は山口県でも44.9%ぐらいありました。それが今現在は37.2%と離職率は低くはなっています。現在、まだ高い数字にあるのは、推測でございますがリーマンショック後の求人が非常に少なかった時分に、無理に就職先を求めて就職してしまったケースとかも要因の一つとして考えられると聞いております。以上でございます。</p>
中 田 委 員	<p>今の離職の理由について、労働局とかではなくて、せつかく高校の先生たちが一生懸命、生徒のお世話をして、その後辞めていくわけですから、たぶんフォローされていると思うんですよ。高校のレベルで情報を集計する方が、生徒の本音が聞けるんじゃないかなと思います。</p>
教 育 長	<p>わかりました。ご意見を踏まえてまた対応させていただきたいと思えます。</p>

岡野委員	<p>私の仲間が皆、パートナーの介護をされていて、大変な思いをしています。今度の周防大島高校の介護福祉士資格取得100%を目指してということで、新しくこういった学科ができますから、是非100%を目指していただきたいと思います。やっぱり若い力でないと介護は難しいです。</p> <p>今からどんどん高齢者増えていきますので、こういった形の就職をどんどん若い人がしていただきたいと思いますので、就職率100%ぐらいの思いで中身をもっと充実させて、素晴らしい学校にしていだけたらと思います。よろしく願いいたします。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。頑張りたいと思います。</p> <p>それでは、次回以降の教育委員会会議の日程について、教育政策課からお願いします。</p>
教育政策課長	<p>では、来月の定例会は6月18日木曜日の午後2時からを予定させていただきます。7月はジャンボリー前の中旬に予定させていただきます。8月につきましても、盆明けの中下旬を予定させていただきます。以上でございます。</p>